

2月16日 教育条件整備全県学習会

教育条件整備全県学習会報告・長野高教組教文通信

長野高教組 I・U

2月16日(土)、「教育条件整備全県学習会」が高校会館で行われ、27名の参加がありました。これは、高教組・教財部、教文・教育条件整備研究会、県教組との合同で開催したものです。主催者挨拶と情勢報告等の後、「本当の30人学級を実現するには～学級編制・教職員配置の制度を知り、その実態を調べよう」と題し、山崎洋介さんが講演しました。山崎さんは「ゆとりある教育を求め全国の教育条件を調べる会(略称「調べる会」)」の事務局長、日本教育法学会会員で、現役の小学校教師です。冒頭、自分が「アンパンマン」と子どもたちから呼ばれ、田中康夫氏に似ていると言われているエピソードを紹介し、関西人らしい笑いをとってから講演に入りました。以下、講演の概要です。長野県小・中学校の少人数学級による増学級数は553学級で全国5位だが、教職員定数は47名の減(2012年)である。内訳は、小中学校で+169名、特別支援学校で-216名。少人数学級の拡大は特別支援学校(以下「特支」)と行政(事務・栄養)の教職員定数を減らして調整している。長野県の教職員人件費は国の標準とほぼ同じで、特に「特支」の落ち込みは大きい。地方裁量「少人数学級制」はトータルで見ると教育条件の後退であり、新たな制度改悪を準備している。すなわち「ナショナルミニマム(国の最低基準)」の分権的解体(大阪の実態が顕著な例)に利用されている。「地方裁量による少人数学級実現」の陰で、41人学級が生まれたり、学級数が増えても教員が増えなかったり、「加配教員」のミステリーが生じたり、非正規教職員が増え続けている。(中略)この政策を推進している「新自由主義」は簡単に止められないが、矛盾だらけで自滅するはず。長野県教育予算は県予算の24%で維持しており、さすが皆さんの運動の成果と感心したが、決算のウラをしっかり分析して騙されないようにして欲しい。「本当の30人学級」を求める運動の再構築は、正に私たちの取り組みにかかっている。…講演は義務教育の教育条件分析が中心でしたが、高校の教育条件整備にもたいへん参考になるお話でした。参加者はみな「資料の分析が大変素晴らしく勉強になりました」と絶賛する感想を寄せました。

参加者感想文から

総額裁量制のからくり等について、大変わかりやすく説明していただき勉強になった(県・長水)

「少人数学級制」という言葉のイメージとは反対に、ナショナルミニマムを下げ、地方に丸投げしようという教育条件の後退につながる状況がわかりました(県・木曽)

国が果たすべき責任を地方へ丸投げしていることがよくわかった。橋本ファシズムに危機感を覚えていたが、益々恐ろしくなった(高・専門委)

長野県と他県の比較。教育財政の仕組みについては大変興味深く伺いました(高・専門委)

とても興味深かった。一言では言い表せないほど価値観が変わった。交渉に役立てたいし、役立ててほしい。資料の分析が大変すばらしかった(県・下水内)

支部の書記長という任にありながらわかっていないことが多いので、今後の運動のあり方について

参考になりました。ありがとうございました（県・木曾）

講演、大変勉強になりました。ありがとうございました（高・高水須坂）

すばらしい内容の学習会でした。教職員の中にも（特に若い世代に）新自由主義的教育観に傾倒していく者がじわりと増えていると思います。仕事に誇りを持って「給料上げろ！」と言えない教職員は、子どもたちを幸せにできないのですね。改めてそこに確信を持たなくてはと思いました。と同時に、知らなくてはいけないことを突きつけられた思いです。ありがとうございました（高・佐久）

新自由主義が自滅するという御発言は大変力強く説得力がある主張とと思いました。データに裏打ちされてお話し、とても興味深くあっという間の時間でした。有難うございました。（高・専門委）

予算、お金の使途について感心を持つべきと強く感じました（高・上小）

この内容を世論にどのように良くわかる形で知ってもらっていくか、展望を聞いてとても大切なことだと思いました。山崎先生もあらゆる場面で啓蒙されていると思いました。自分も何かの形で幅を広げていけたらと思います。ありがとうございました（高・専門委）

2月17日 教職員配置状況の調べ方研究交流会 in 長野 感想

山崎さんのお話をお聞きし、教育条件がどのように決められているのか、入り口部分だけですが、理解することができました。特に賃対部担当であるため、国庫負担算定関係、教職員定数算定関係のことに興味をもって、お聞きできました。まだまだ、話していただいた内容の1割も理解できていない状況ですが、今まで全くわからなかったしくみが、臍気ながらも見えてきたような気がします。

それにしても、個人でこのような開示のとりくみをしようとした、着眼と意欲に感服しました。ありがとうございました。

長野県教組 T・M

今回の学習会が、長野県教組の本部役員ばかりでなく支部役員にも聴いてもらう事ができ、長野県教組の運動にとって、とても有意義であったと思います。委員長も参加したのですが、とてもわかりやすく勉強になったと言っていました。私自身は会議が重なってしまい、参加できませんでしたが、2日目の「調べる会」には参加。そこでは学校基本調査ではわからない非正規職員の数のことや、決算書で見ることの大切さ、加配の意味等について考えさせられました。これからの正規教職員増の運動へのヒントをいただきました。資料が膨大なので、3月中にはなんとか少しでも自分のものにしていきたいと思います。

長野県教組 Y・T